

## ■2013年1月14日（月・祝）トークイベント無事開催しました！

※トーク：映画に登場の木下愛さん×三浦淳子監督

2013年・初の大雪の日、足元の悪いなか、たくさんの方にご来場いただきました！

上映後、急きょ来場が決まった、映画に登場・主人公の木下愛さんがトークに参加しました！



「今日は伊那弁を使ってリラックスモードで、どうぞ！」という三浦監督からの要望に、愛ちゃんは、がんばって「…だもんで」「だに…」を使いながら当時三人娘でやっていた雪遊びはじめ、あらゆる遊びのこと、撮影時の三浦監督の思い出、不登校になったばかりの時の思い出等を語ってくれました！

### ■木下愛さん

淳ちゃん（三浦監督）の撮影のことは、よく写真を撮っていた叔母の和子さんの延長で、特に気にしてなかった。友だちとして遊んでいたの。

もちろん映画になるとも知らず、割と最近「え?!映画になるの?？」と。

学校に行かなくなった一年生の時は、家にこもってテレビ見たり、一人でリカちゃん人形で遊んだりしてた。映画で撮影された状態になるまではこもって暴

れていた時期があったみたい。車から靴を投げたという話はよく覚えていて、ホントにコワイお母さんだと思った。でも他に暴れたことはあまり覚えていない。辛いことは忘れるのかな?よくお母さんに公園に誘われて、二人で遊びに行ったけど、お母さんとは限界があって…それでお母さんが近所の結美ちゃんや美穂ちゃんを誘ってくれたみたい。それが、外に出る始まり?そのうちに、お母さんに関係なく自分たちで遊ぶようになった。



雪遊びは、結構良い年になるまで、映画に出てくるカヌーのシーン（天竜川）の土手で「そりすべり」をしていた。立ったまま入れるくかまくらは自慢。かまくらでも、川遊びでも、ピクニックでも、身一つでその場に行って遊んでいた。基本は「ごっこ遊び」で、結美ちゃんが美人でお金持ちのリカちゃん役で、美穂ちゃんと私は姉妹、という設定が多かった。いろんなものに名前をつけたりもした。映画にも出てくるカヌーを漕いでいる人たちを、「命知らず」と言ったり、選挙カーや竿竹屋、廃品回収車などを「方向オンチ」と呼んだり。ピクニックも時には「家出」と称して、家に書置きを残して、おにぎりを持って山や川に出かけたりしていた。



### ■三浦淳子監督

私自身、学校に行くのが辛かった時期、「学校に行かないとまずいんじゃないか」

「人生終わっちゃうんじゃないか」と思って、嫌だろうが何だろうがとにかく行っていた。でも、「嫌だな」「行きたくないよ」とお母さんに言える愛ちゃんって、素直でしっかりしてるな、会いたいなと思った。そうしたら、こんな感じでどんどん遊びを作り出して、毎日がすごく充実している。「命知らず」や

「方向オンチ」など、言葉の発見・発想力のすごさに感心した。長野でも、当時から、外で遊んでい子は見かけず、習い事したり、塾に行ったり、家でゲームをしたり、、すでにそういう時代で、川なんか「流されたらどうするの」と行かせてもらえない子が多かった。そんななかで、お母さんの洋子さんは、美穂ちゃんと結美ちゃんのお母さんに、出来るだけのびのびと子どもを遊ばせたいという話をして、二人のお母さんは理解してくれて、あの環境を生むことができた。「洋子さんがすばらしい」ということを聞くが、どのお母さんも、家族や子どもを育てていく時に、いろんな困難を乗り越えていく、そういう力が宿っているんじゃないかな、と思う。

今回、カフェトークはありませんでしたが、劇場ロビーでは、思わず愛ちゃんに駆けよる親子連れの姿も！

～ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました～